

各関係機関団体の長
殿
各病虫害防除員

福岡県病虫害防除所長

平成25年度病虫害発生予察特殊報第2号について

このことについて、本県の施設栽培トマトほ場において、T oMV抵抗性遺伝子T m-2^aを有するトマトに顕著なモザイク症状が確認され、調査の結果、新系統のT oMVと考えられたのでお知らせします。

特殊報第2号

- 1 病虫害名 トマトモザイク病
- 2 病原ウイルス トマトモザイクウイルス (*Tomato mosaic virus* ; T oMV)
- 3 発生物種 トマト

4 発生確認の経緯

平成24年12月頃から、県内トマト産地において、株の萎凋、葉のモザイク(写真1、2)・退緑斑、茎の空洞化、果実えそなどの症状が発生した。病虫害防除所において同定したところ、T oMVであることを確認した。

また、平成25年4月に九州沖縄農研センターに同定を依頼した結果、RT-PCR法による検定ではT oMVプライマーのみで陽性反応が認められ、T oMVであることが確認され、併せて、同センターでT oMV抵抗性遺伝子T m-2^aを有する一部トマト品種に福岡県で発生を確認したT oMV福岡分離株を接種した結果、顕著なモザイク症状(写真3)や退緑斑が認められた。接種試験では、現地で問題になった株の萎凋、茎の空洞化症状の再現は未確認であるものの、モザイクや退緑斑の症状は再現された。さらに、接種により病徴発現した葉からはT oMVが再検出された。

5 国内での発生状況

平成23年7月に栃木県が発表した特殊報「T oMV新系統によるトマトの病害について」により、T oMV抵抗性遺伝子T m-2^aを持つトマト品種の葉にえそ症状を起こすT oMVについて、葉脈に沿ったえそが全身に現れるが果実にえそを生じないことが報告されている。一方、福岡県で発生を確認したT oMVは、一部抵抗性品種に明瞭なモザイク症状を生じることから、栃木県が報告したT oMVとは異なる系統と考えられる。

6 トマトモザイクウイルスの性質及び伝染

T oMVはTMVと同属の *Tobamovirus* 属に属する 300×18nm の棒状粒子で、安定性が高く、種子伝染、土壌伝染、接触伝染する能力が非常に高い。福岡県で発生を確認したウイルスがT m-2^a型T oMV抵抗性トマト品種で顕著なモザイク症状を示すことから、新系統のT oMVと考えられる。

7 感染植物

現在までに、新系統と考えられているT oMVの感染が確認された作物はトマトで、宿主範囲については不明である。

8 防除対策

抵抗性品種に感染するため、今のところトマト品種を利用した防除は出来ない。TMV対策と同様に、以下の対策を実施する。

- (1) 土壌伝染を防止するため、蒸気消毒などを実施する。
- (2) 収穫後の残渣は根部、敷きワラなども含め、ハウス外に持ち出し焼却する。撤去の際、根部が切断されて土中に残らないように、株は生乾き程度の乾燥状態で持ち出す。
- (3) 管理作業の際には、畝ごとにハサミを交換し、発病が疑われる株付近の作業は最後に行う。
- (4) ハサミなどは、作業後に熱湯で殺菌するか、消毒液で消毒する。
- (5) 支柱などの資材は、栽培終了後に高温処理するか、消毒液（ビストロン等）で消毒する。



写真1 葉のモザイク症状(現地)



写真2 葉のモザイク症状(現地)



写真3 接種によりT oMV抵抗性品種に現れたモザイク症状